

2015年10月2日(金)

技術本部 NTS 課 酒井 拓明

第1回歴史的建造物サークル 活動報告書

去る2015年9月26日(土)、第1回歴史的建造物サークルの活動が会津若松駅東部にて行われた。会津若松駅東部には、江戸時代初期から明治時代中期にかけて建築された歴史的建造物が点在している。今回の活動では、会津乗合自動車株式会社によって運行されている観光バス「あかべえ」(写真①)に乗車し、『東山温泉』『鶴ヶ城』『阿弥陀寺』の順に歴史的建造物を巡った。

11時半ごろ東山温泉に到着した。天気は曇りと雨のはっきりしない天気だったため、温泉街を足早に進んだ(写真②)。東山温泉は、今から7世紀後半に、3本足の鳥に行基が導かれて、この地の泉源を発見したと云われている。行基は近畿地方出身であるが、作並温泉や野沢温泉など東日本地域において、多くの温泉を発見したいわれを持つ。行基によって発見された東山温泉は、江戸時代に会津藩の湯治場として栄え、地区を流れる湯川沿いに温泉宿が形成された。これらの温泉宿の名称には、「瀧」という文字が多く見られた。東山温泉周辺には、多くの滝が見られ、特に「雨降り瀧」「原瀧」「向瀧」「伏見ヶ瀧」の4箇所は、「東山四大瀧」と呼ばれている。湯川の川音を耳にしながら、「原瀧川どこダイニング」(写真④)にて昼食を取り、今後の歴史的建造物サークルの活動について話し合いを行った。

東山温泉をあとにした、我々は14時過ぎに鶴ヶ城に到着した(写真③)。鶴ヶ城は、今から600年前、会津の地を収めていた輩名直盛によって建設された。当時は「黒川城」と呼ばれていたが、1580年代から1590年代にかけて、伊達政宗・蒲生氏などの入城により、城名が鶴ヶ城に改められた。1598年から2年間では、越後から庄内地方を治めた上杉氏によって、会津若松は統治された。1601年には蒲生氏の再入城、1627年には加藤嘉明の転封、1643年には徳川家光の弟・保科正之の転封などを経て、1868年に松平氏によって統治された。これらの武将たちも、先に紹介した東山温泉に浸かることで、戦いで負傷した傷を癒やしたのであろうか。城内には老若男女の観光客が多く、鶴ヶ城天守閣再建50周年記念や2013年に放送されたNHK連続テレビ小説「八重の桜」などの影響が伺える。

最後の目的地である阿弥陀寺には、15時半頃に到着した。阿弥陀寺の境内には、御三階(写真⑤)と新選組斎藤一の墓が佇んでいる。この阿弥陀寺は1603年に会津の地を治めていた蒲生氏が、良然に土地を与え開山した。この阿弥陀寺の本堂は戊辰戦争によって焼失したため、鶴ヶ城の本丸にあった御三階が仮本堂として移設された。この一方で、戊辰戦争における幕府軍の戦没者約1,300名が埋葬されている。約150年以上前に移設された御三階の佇まいと、この建物の抱える歴史的な意味が静寂な雰囲気を作り出していた。

歴史的建造物の歴史に目を向けることで、会津若松駅東部の繁栄と沈静を知ることができた。このような歴史の上に、新たな黎明期を迎え奮闘する街の姿も認識し、会津若松をあとにした。



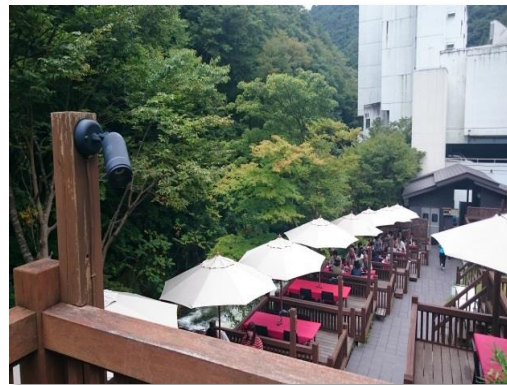
写真① 会津若松循環バス「あかべえ」



写真② 東山温泉街と湯川



写真③ 鶴ヶ城



写真④ 川床ダイニング



写真⑤ 御三階 (阿弥陀寺)